

## 川越市児童館改修整備基本構想の取組状況

## 川越市児童館改修整備事業の取組について

## 【計画上の位置づけ】

本取組は、川越市こども計画にて定められており、計画期間内の整備を目指しています。

## ●川越市こども計画（令和7～11年度）

－基本目標5 地域と社会でこども・若者、子育てを支える環境づくり

－施策目標2 こども・若者の居場所づくり

－主な事業2 児童館機能の整備

各児童館の特性を生かし、地域の高齢者と連携した異世代間交流や、外国籍市民との交流を深め、国際理解を促進する等、豊かな感性・情操を育む児童館事業を推進します。

また、児童センターこどもの城について、老朽化した施設・設備を改修するとともに、利用者ニーズによる屋内プレイエリアや、屋外広場の改修等を行い、若者も含めたこどもの居場所の機能としての役割に加え、誰もが利用しやすい快適な空間の創出を図ります。

## 【令和7年度の取組状況】

令和7年度6月補正予算において、基本構想支援業務委託の予算措置を受け、川越市児童館の現状の整理や、現代のこどもたちに求められる児童館像の分析を行っています。

現在、基本構想案を児童館の運営に関することを所管する児童館運営委員会に諮問、審議中であり、令和7年度中の策定を予定しています。

## 川越市児童館改修整備基本構想案の構成

基本構想案は、第1章～第5章で構成し、以下の項目を予定しています。

章	項目名称	説明
1	川越市児童館改修整備基本構想の策定に向けて	策定の背景や児童館の役割
2	川越市児童館の基本情報整理	本市児童館の施設情報
3	川越市児童館の現状把握	本市児童館の状況分析
4	川越市児童館のあり方	本市児童館の今後の方向性
5	児童センターこどもの城の改修整備計画	児童センター改修の方向性

## 第1章 川越市児童館改修整備基本構想の策定にあたって

近年、こども・若者・子育て世帯を取り巻く環境は大きく変化してきており、こどもが安心して過ごせる「居場所づくり」の重要性が高まりを見せています。その中で、国の子ども・子育て施策の理念に基づき、「児童館ガイドライン」が改正され、児童館は「こどもの居場所づくりにおけるコーディネーター」としての役割が期待されています。

## 第2章 川越市児童館の基本情報整理

児童館とは、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした施設です。市内の児童館の設置状況は以下のとおりです。

	児童センターこどもの城	川越駅東口児童館	高階児童館
所在地	石原町1丁目	菅原町(クラッセ川越内)	藤間(高階市民センター内)
開館日	S58.4.17(43年目)	H14.7.21(24年目)	H20.5.1(18年目)
利用料	無料・プラネタリウム100円/人回	無料	無料
運営体制	・直営＝市職員＋委託 市職員：館長(東口と兼) 委託：公社	・直営＝市職員＋委託 市職員：館長(城と兼) 委託：公社	・直営＝市職員のみ 市職員：館長、保育士 会計年度職員

	児童センターこどもの城	川越駅東口	高階
施設諸元	・RC2階建、借地 ・建物敷地1959㎡ ・広場・駐車場1608㎡ ・延床面積1148.1㎡ ・ホール、遊戯室、屋外広場、プラネタリウム等 ・駐車場14台 ・駐輪場80台	・RC(クラッセ4F)、市有地 ・延床面積388.11㎡ ・遊戯室、集会室 ・図書室、ホール等 ・駐車場なし ・駐輪場70台	・RC(市1F)、市有地 ・延床面積349.77㎡ ・遊戯室、ホール等 ・駐車場66台 ・駐輪場115台
入館者数(R6)	46,060人 (プラネ:1,988人)	23,674人	42,374人

## 第3章 川越市児童館の現状把握

## 【各児童館の現状と特徴(抜粋)】

施設名	現状	特徴
児童センターこどもの城	・市内の児童館では最も入館者数が多い。 ・プラネタリウム利用者数は減少傾向。 ・開館40年以上経過、設備老朽化が進行。 ・アナログ式プラネタリウムの部品生産終了。	・市内の児童館では最も延床面積が大きい。 ・プラネタリウム・天体観測室を有する。 ・主要駅から離れており、駐車台数も少ない。 ・川越駅東口児童館と利用圏が重複している。
川越駅東口児童館	・市内の児童館の中で最も入館者数が少ない。 ・利用者の8割以上が個人での利用となっている。	・施設の延床面積は、児童センターこどもの城の3分の1程度。 ・複合施設クラッセ川越内に設置。 ・川越駅・本川越駅近くに立地している。 ・児童センターこどもの城と利用圏が重複。
高階児童館	・同等規模の川越駅東口児童館と比較して、入館者数が多い。 ・近年、団体利用数が増加している。	・施設の延床面積は、市内児童館の中で最小。 ・高階図書館や高階公民館が併設。 ・新河岸駅から徒歩圏内であり、駐車場・駐輪場の台数も多い。 ・他2館とは、独立した利用圏を有している。

## 【アンケート等調査結果】

児童館改修整備について、令和7年6月から8月までの期間で、各対象者に紙・電子・対面など様々な手法によりアンケートを実施しました。その結果、求められる児童館の機能として、以下のようなものが、主な結果として得られました。

対象者	児童館に求める機能
乳幼児(0～6歳児)保護者	・運動をするために使える広い屋内スペース ・児童館が学校や家の近くにあること
小学生	・遊びの場所として屋内外で体を動かす ・おもちゃで遊ぶ
中学生	・友達と飲食をしながら雑談できるスペース ・スポーツや運動ができる場所
高校生	・中高生専用の利用・開館時間 ・部活動などの団体に利用可能なスタジオなどのスペース利用
施設管理者	・遊具・備品の充実 ・老朽化した設備や機能の更新・修繕

# 川越市児童館改修整備基本構想の取組状況

## 第4章 川越市児童館のあり方

前章までを踏まえ、川越市児童館のあり方を以下の通り整理します。

### 【本市の児童館の目指すべき方向性・整備方針】

施設名	役割分担・目指すべき方向性	重点的に強化を検討する機能
児童センター こどもの城	児童館の中核施設として、市内全域にサービス提供が可能な拠点性の高い施設を整備し、こどもの多様なニーズに応える活動・体験の核となる「未来を育む交流拠点」を目指す。	<p><b>・こどもの居場所の充実:</b> 小学生以下向けの広場・遊び場や、中・高校生向けの学習スペースといった、幅広い年代のこどもに向けた多機能な居場所の確保を検討します。</p> <p><b>・積極的な利用支援アプローチ:</b> 中・高校生の学校外での部活動・趣味活動を支援する機能の整備を検討します。 各施設の利用圏から離れている地域に対して、移動型児童館等のアウトリーチ支援を検討します。</p>
川越駅東口 児童館	駅前という立地状況と、複合施設の特性を活かし、利便性の高い子育て支援と、市民の多目的利用を推進する「利便性の高い地域連携拠点」を目指す。	<p><b>・乳幼児親子向け機能の充実:</b> 駅前という立地を活かし、保護者が利用しやすい広場機能を充実させ、子育て相談窓口としての役割の強化を検討します。</p> <p><b>・複合施設の特性を活かした他施設との一体的な利用促進:</b> 同建物内にある他の公共施設と連携し、複合施設としての相乗効果を発揮できるスペースの活用を検討します。</p>
高階児童館	市民センターとの複合施設としての特性を最大限に活かし、地域における多世代の交流促進を担う「地域に生きる児童館」を目指す。	<p><b>・多世代交流機能の強化:</b> 市民センター利用団体(高齢者など)との交流イベントを促進するための取組を検討します。</p> <p><b>・地域密着の子育て支援:</b> 地域住民の協力も得ながら、きめ細かな子育て支援と地域に開かれた活動の推進を検討します。</p> <p><b>・複合施設としての相乗効果:</b> 同建物内にある他の公共施設との連携による、地域活動の取組の強化を検討します。</p>

### 【各公共施設や地域団体との連携】

各児童館において、地域特性を活かしながら、他の公共施設や地域団体との連携を図り、多様な役割・機能を発揮していくことで、より充実した児童館運営に努めます。

### 【各児童館の運営手法】

全国的に民間活力を導入した児童館が増加傾向にあることや、本市の「川越市第二次民間委託等推進計画」において、児童館への指定管理者制度導入の検討が位置付けられていることから、リニューアル後は民間のノウハウを最大限に活用できる管理形態への移行を検討します。

そのほか、以下の事項についても、今後の検討すべきものとして整理します。

- ・開館時間の見直し、利用料金の考え方、財源確保への取組、施設名称の検討

## 第5章 児童センターこどもの城の改修整備計画

### 1. 施設整備の方向性及び施設改修コンセプト

#### (1) 施設整備の方向性

児童センターこどもの城の40年目改修で、施設の性能改善と併せた設備改修を目指すにあたって、周囲の環境や社会情勢などを踏まえ、施設整備の方向性を以下の4点に定めます。

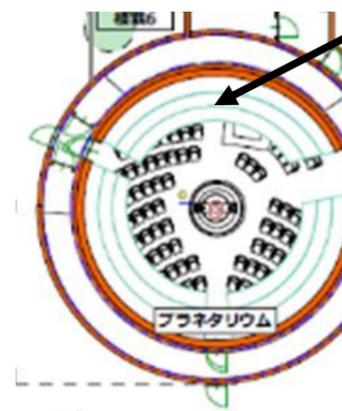
- ア こどもが自らの工夫で活用できる施設整備の推進(自主的な遊びと学びのきっかけとなる場所づくり)
- イ 地域特性に合わせた児童館運営を積極的に進められる施設整備の推進(交流と支え合いの場所づくり)
- ウ 安全安心な「居場所」として、すべてのこどもが日常的に利用できる施設整備の推進(いつでも、だれでも利用できる場所づくり)
- エ 環境配慮の推進(環境に配慮した施設づくり)

#### (2) 施設改修コンセプト

- ア 可動壁などを活用したフレキシブルな室内空間活用
- イ 現プラネタリウム(ドームスクリーン)空間の効果的な活用
- ウ 多様な屋外空間の効果的な活用

### 2. 改修後の諸室利用イメージ(抜粋)

#### 【現プラネタリウム(ドームスクリーン)空間】



多目的ルーム(ドームスクリーン):  
現在の機器・座席を撤去し、多目的に使用可能なフラット空間の創出を検討します。プラネタリウム機能について、スクリーンを保存し、映像投影の活用などを検討します。



### 3. 改修整備の手法等検討

改修に係る工事手法の選択肢などを検討し、今後の取組を効果的かつ円滑に進めるために、スケジュールを以下のとおり予定しています。(指定管理者制度導入を仮定した際のスケジュール)

手順	取組事項	説明	取組期間
1	【ハード面】改修基本計画策定 【ソフト面】指定管理者制度導入検討	・本基本構想を踏まえて、その具体化に向けた条件整理、ゾーニング案の作成 ・導入効果検討、対象施設選定	0.5 ～ 1年
2	【ハード面】工事基本設計・実施設計 【ソフト面】指定管理者制度導入準備	・工事に必要な数量・図面等の作成 ・導入に係る条例等改正準備	1年
3	【ハード面】工事実施 【ソフト面】条例改正、事業者募集	・工事(施設休館) ・川越市児童館条例改正、指定管理者募集	2年
4	【ハード面】リニューアルオープン 【ソフト面】制度導入開始	・リニューアル後のこどもの城供用開始 ・指定管理者による児童館運営開始	-